大学院国際協働演習 レポート

本レポートを活動報告書兼成績報告書に添えて提出してください。

専 攻 名

学生番号

学生氏名

１．GCE 要素の達成について（※別紙GCEの要素とレベルを参照してください）

①「多様な文化の受容」に係る自己評価とその理由について（200字程度）

②「コミュニケーション力」に係る自己評価とその理由について（200字程度）

③「自律的学習力」に係る自己評価とその理由について（200字程度）

④「課題発見力・解決力」に係る自己評価とその理由について（200字程度）

⑤「デザイン力」に係る自己評価とその理由について（200字程度）

２．留学生との協働学習を通しての気付きについて（200字程度）

３．国際協働演習の成果について（200字程度）

別紙

※GCEの要素とレベルについて

　GCEの要素について

　１．多様な文化の受容

　　　多様な文化を受け入れ、その中で暮らす自分の位置を、相手の立場に立って考えられるようにするための力

　２．コミュニケーション力

　　　育った環境や文化、あるいは言葉が異なる人々が、有意義な人間関係を作りだしていくための力

 ３．自律的学習力

　　　自分で計画や目標を立てて、継続的に学んでいく姿勢や自主的に学び続けることができる力

　４．課題発見・解決力

　　　課題を発見する力、それに向かって色々な方法を思いつき実行する力

　５．デザイン力

　　　関係者の意見を多角的に取り入れ、試行錯誤を繰り返しながら、最適な（製品）やシステム等を創りだす力

GCEの要素は、下表のとおり４段階のレベル設定を行っています。

　下表を参考に、「大学院国際協働演習」の活動を通じて、自身が向上した点や成長したと感じる点について、述べて

　ください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **レベル(人材像）** **要素** | **BASIC≒JABEE国際基準達成レベル** | **SEMI-ADVANCEDJABEE国際基準達成 Plus（＋）** | **ADVANCED** | **MASTERLY** |
| **多文化、多国籍の国際協働プロジェクトのメンバーとして問題なく有効な能力を発揮** | **多文化、多国籍の国際協働プロジェクトの主力メンバーとして問題なく有効な能力を発揮** | **多文化、多国籍の国際協働プロジェクトのリーダーとして遺憾なく能力を発揮** | **グローバルなプロジェクトに関わる国際交渉の場で調整・交渉役としての役割を担う** |
| **１．多様な文化の受容** | 多文化、多国籍の国際プロジェクトのメンバーの固有性を尊重し、受容する | 多文化の背景を理解し、メンバーの固有性を受容する | 多様な文化的背景を持つプロジェクトチームの意志を統率する | 国際社会や当該諸国家の政治・経済・社会情勢を理解し、利益や意見の調整を図る |
| **２．コミュニケーション力** | エンジニアに必要な技術用語や概要を英語で表現し通訳やコーディネータを介して意思疎通する | 辞書などを用いながら自ら意思疎通することができる | 日本語、英語、現地語を使いチームメンバーの意志を統率し意思決定に導く | 国際交渉の場で適切な言語を用いて交渉に主体的に関与し調整する |
| **３．自律的学習力** | 工学の基礎的な知識に付加的な知識を自主的に身につけていく | 工学の知識に加え、自ら必要な情報を調査・学習し役立てることができる | 国際プロジェクトに最適な技術や情報の知識を必要に応じて調査・学習しプロジェクトを導く | 地球的視点から見て,最も効果的な施策を技術者の立場から提言し実現する |
| **４．課題発見・解決力（探究する力）** | 与えられた国際的な諸条件のもとでチームメンバーとともに課題を発見、解決に協力する | 諸要件を理解し、課題解決のための合意形成に努める | 国際的なプロジェクトの環境的な制限要因を見極め最適な方向を見出す | 異なる法体系の諸国家や異文化間の交渉における問題を発見し妥協点を見出す |
| **５．デザイン力** | 多国籍チームの一員としてプロジェクトの諸条件に配慮しながら製品・システム等を開発する | 多国籍チームの一員としてプロジェクトの諸条件を理解して、製品・システム等を開発する | 多国籍チームメンバーの意見を取り入れながら革新的な製品・システムを開発する | グローバルな視点から人間社会にとって普遍的な意義を持つ製品・システムを開発し、グローバル展開する |